

共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



登山 万佐子

2007年11月、長女綾美(8)は無事に1歳の誕生日を迎えました。その翌日、体重千々未満で生まれた超低出生体重児とその家族の会「Nっ子クラブ カンガルーの親子」が誕生しました。私が代表を務め、毎月、数力所で会を開いています。

娘が大病院の新生児集中治療室(NICU)に入院中から、家族会をつくりたいと思っていました。「先輩ママの体験からくる言葉にうつつらと未来が見え、勇気がわいた」。難病の子どもたちとその家族を支援するNPOについて書かれた記事の中の参加者の声に共感したのです。まさに、NICUの面会室

で、娘より小さな赤ちゃんを産んだ先輩ママに声をかけてもらったときの私でした。お子さんが小さな体で手術を乗り越えたという話が、どんなに心強かったか。すぐに頑張っている子がいる事実が大きな勇気となりました。

未熟児の家族会発足

それから、福岡県内で体重2500g未満で生まれた「低出生体重児(未熟児)」のための会を探しましたが、見つかりません。それなら私がつくろうと、ほんやり考えるようになったのです。NICUを退院後、保健所からの

「Nっ子クラブ カンガルーの親子」の初めての定例会



乳幼児訪問でわが家を訪れた助産師さんに「家族会をつくりたい」と話しました。そして、保健所主催の「未熟児教室」で呼びかける機会をいただきました。

私の思いに賛同し、一緒に行動してくれたのが、NICU

抱いてお互いの家集まり、いろいろな話をしました。最初に会の名前が決まりました。NICUで頑張った子どもたちを「Nっ子ちゃん」と呼ぶことにしました。「カンガルーの親子」は、やっとわが子を胸に抱くことができ「カンガルーケア」にちなんでいきます。

「ママの笑顔が子どもにと

Uで保育器が隣だったHさん、そして未熟児教室で出会ったKさん。2人とも体重900g台の赤ちゃんを産んだお母さんでした。同時期に同じNICUに入院し、兄や姉がいることも共通していた私たちは意気投合。小さな子どもを

って一番の栄養」「笑顔の連鎖を広げたい」。私たちの思いを書き込んだチラシを作り、子どもを連れて福岡県筑紫地区の4市1町の役所、NICUのある病院を配って回りました。

こうして、ようやく迎えた初定例会。体調不良での欠席の連絡が相次ぎ、誰も来ないかもしれないと、不安でいっぱいでした。ところが、開始時間には6組の親子が来てくれました。体重850gで生まれ、中学生まで成長した男の子と一緒にお母さん、子どもがNICU入院中の人もいました。

輪になって自己紹介が始まると、みんな涙がこぼれまわった。この日まで誰にも話せなかった思いがあふれ出しているようでした。

(「Nっ子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)